

魅力あふれる 私立小学校の 世界

日本私立小学校連合会 会長
神奈川県私立小学校協会 会長
桐光学園小学校 校長

斎藤 滋

グローバル化や科学技術の発展が進む今日、子どもたち一人ひとりの確かな成長を支援する初等教育の重要性は一層増しています。卓越した建学の精神のもと、先導的な教育を展開する私立小学校の魅力を、日本私立小学校連合会会長の斎藤滋先生に伺いました。

(聞き手：大学通信代表取締役社長・田所浩志)



——明治6年に近代教育の始まりとされる学制が施行されて、今年で152年経ちます。私立小学校の中には100年以上の長い歴史を持つ学校もありますが、先生は私立小学校の果たしてきた役割をどのようにお考えになっておられますか。

慶應義塾幼稚舎は2024年に、創立150周年を迎えました。今日、私立小学校は全国で249校(令和6年度)を数え、その多くは昭和に入ってから開校されたものですが、明治時代には20校が、また大正時代にも同じくらいの学校が創設されるなど、



田所 浩志

長い歴史を持つ学校もあります。

太平洋戦争が始まる直前、日中戦争勃発時に、全国の小学校を「国民学校」に切り替えることになり、私立小学校は全廃するという閣議決定がなされました。そうした危機的状況を迎えながらも、私学の人々は「日本私立小学校連合会」を立ち上げ、何とか全廃を回避することができたのです。

その際に、生き残りを図るだけでなく、「連帯」というものを築き上げてくださったことが、今日の我々の大きな支えになっていることは間違いありません。

とりわけ、子どもたちの教育に対して関心の高い方々が、私立小学校を見捨てなかったということが、とてもよかったのではないかと思います。

翻って、今日、「この小学校はどんな学校なの？」というときに、建学の精神を意識する人もいると思いますが、その根っこにある精神、「どのような創立者の考えに基づきつくられた学校なのか」ということを、伝え続けてきたからこそ私立小学校の今があるのだと考えます。

私たち私学人は、これからも伝えなければならないことはきちんと伝える。同時に、今、自分たちの学校で取り組んでいることについても、分かりやすくきちんと伝えていく。建学の精神と、その後の小学校の歩みが教育の特色になって、学校の雰囲気、

校風がつくられているということを訴えていきたいと思っています。

——私の母校は大正6年に澤柳政太郎先生が創設した成城学園初等学校ですが、大正自由教育運動が起こったこの時代には、中山春二先生(成蹊小学校)や、小原國芳先生(玉川学園)など、優れた教育者が特徴ある小学校を創設しました。そうした私立小学校の精神は、これからも伝えていかなくてはならないですね。

日本私立小学校連合会に加盟している小学校を見ますと、幼稚園または中高を併設している学校が7割くらいあります。そこにお子さんを通わせている保護者の方々は、単に小学校の6年間を過ごさせたいという思いだけではなく、「長年にわたって同じ教育方針のもと、子どもたちに安心して教育を受けさせたい」という気持ちも強いのかなと思います。

近年では、大学を擁する学校法人が新たに小学校を作るケースも目立ちますね。

——東京では2005年に帝京大学小学校がまた2019年に東京農業大学稲花小学校が開校しています。

神奈川では、2013年に慶應義塾横浜初等部が、15年に日本大学藤沢小学校がそれぞれ開校しました。関西でも2000年代に入って同志社小学校、立命館小学校、関西学院初等部、関西大学初等部などが相次

ぎ誕生しました。

小学校からお子さんを預かって12年間、さらに大学の4年間まで学ぶことのできる学校がある一方で、頑として中学から、という学校も多くあります。仮に12年間

を考えて小学校に入学したとしても、途中で考え直すチャンスがあるというのも良いと思いますし、子どもたちにとっても保護者にとっても、いろいろな選択肢があるというのは良いことだと思いますね。

独自のカリキュラムに私学の魅力が

——12年間の長きにわたって、仲間との友情を育んだり、クラブ活動など一つのものに取り組んだり、同じ環境の中で先生方との関係を深めたりできることが、私立学校の素晴らしい特徴の一つになっています。

私は本校(桐光学園小学校)が開学するにあたって、いろんな学校にお話を聞きにお伺いしました。成城学園にも行きましたが、そこで特にいいなと思ったのは、グラウンドに土俵があったことです。相撲は私たちの世代では日常の遊びの一つだったからかもしれません。

——私が小学生のときに、お相撲さんと呼んで土俵開きをしたことを思い出します。現在は安全面を考慮して、平らにならしてしまいました。

玉川学園にもお伺いしました。新しい校舎で、コンピューターを導入した学習を早くから採り入れておられました。印象的だったのは、「この校舎はエアコンがいきりません」と言われたことです。緑が豊かで素晴らしい校地です。

——光と風が通るキャンパスは魅力ですね。環境面もそうですし、独自のカリキュラムにも私学の魅力があります。面白い授業ですとか、ユニークな取り組みなどがありましたらお話しください。

教科の中で保護者の方々がいちばん注目されるのは英語ですね。学習指導要領では、3・4年生が外国語活動を週に1時限、5・6年生は外国語を2時限学ぶよう授業時数が定められています(1時限は45分)、ある教科の授業時数を多くすることを、特例措置として国から認めてもらう学校もあり、全学年を通じて英語を学ぶようカリキュラムを組んでいる学校も珍しくありません。

なかには、授業の半分を英語で学ぶ学校もありますが、こうした取り組みについては、教育効果が10年経ってどうだったかという検証をしっかりと行い、広く公開することも重要だろうと思います。

宮城県には、日本語と英語による授業(英語イメージ教育)を行うホライゾン学園仙台小学校があります。横浜にあるインターナショナルスクールを母体とし、2016年、仙台に一条校(義務教育校)を

開校したのです。先日、その学校を会場として東北地区の私立小学校連合会の研修会があり、私も訪問しましたが、第二外国語として中国語とトルコ語を教えていました。——珍しいですね。

どのような教育を行っているのだろうか非常に注目しましたが、学んでいるのは本当に普通の子供たちで、すべての授業は英語で行われているのかなと思っていたら、決してそういうこともなく、日本人教員と外国人教員の先生が係わりながらバイリンガルの授業を行うなど、細かい配慮をされていると思いましたね。

——桐光学園小学校では、3年生まで「表現」という授業を行っておられます。

本校を開設するときに、ダンスですとか身体表現などを子どもたちに学ばせたいと思い、そうした理論や経験のある先生を招いて授業を行ってもらっています。自分で何かを表現するときには、体をどう動かせばよいかとか、相手の気持ちはどうなんだろうとか、身体コミュニケーションを通じて、一人ひとりの感じ方やとらえ方は違うということ学ぶ授業なのですね。

1年から3年までとしているのは、やはり上級生になると恥ずかしがるようになってしまうからです。授業には、ヨガの要素なども採り入れています。今後はさらに工夫を凝らすため、3年からは演劇的な要素も加えてみてはどうかと考えています。

教員の研修グループには、学校劇について考える部会があり、東京でも神奈川でも、



斎藤 滋先生

日本私立小学校連合会会長、神奈川県私立小学校協会会長。横浜国立大学卒業後、桐光学園小学校で教鞭を執った後、1996年の桐光学園小学校の開校に1年前から携わる。2006年、同校の校長に就任。2020年には教育・文化の分野で県民功労者表彰、2020年には文部科学大臣表彰を受賞。

すぐく熱心な先生方が大勢いらっしゃいます。今は西日本や九州には学校劇部会はありませんが、今後はこうした部会を全国に広げていければと願っています。

——学校劇の発祥は成城学園とも言われ、1921年には「第1回成城学校劇発表会」が行われました。

成城学園といえば、授業で「散歩」などを行っていることでも知られますね。このように、私立で先行して行われてきた取り組みが、後に「生活科」のような教科へとつながっていくのだらうと思いますし、各学校が展開している素晴らしい教育はまさに公教育をリードしていると思います。

少子化で重要性を増す 保護者と学校のコミュニケーション

——2024年には出生数が72万988人となり、この10年間をみても毎年2万人から多いときで5万人ほどの減少が確認できます。少子化に歯止めがきかない今日、日本私立小学校連合会として今後の方針などがあればお教えください。

今年小学校に入学した子どもの数は約93万人ですが、それが2026年になると86万人くらいに減少すると考えられます。

現在、日本私立小学校連合会に加盟していない学校に在籍する児童も含めて私立小学校に通う児童数は約8万人ほどです。1学年の児童数が13400人という現状を維持するためには、私立小学校で学ぶ子どもの割合を現在の1.3%から2%程度に引き上げる努力をしなければなりません。特に、私立小学校が多く存在する関東・西日本ではその割合を現状の1.5倍にするくら



いの取り組みが必要です。

神奈川の例で申し上げますと、かつては募集活動にせずして小学校受験塾任せでした。ある教室がイベントを行うというので、そこに参加しようという感じで、自分たちで開拓していくという気持ちはあまり見られなかったのです。

そこで、まずは県内で何とかしようと、2012年に「神奈川私立小学校フォーラム」を立ち上げたところ、多くの学校が賛同してくれました。会場も、横浜だけでと地域に偏りが出るので、県北部の学校を会場に、その周辺地区対象のフェアを始めたりもしています。

こうした小学校と比べ、私立中高の先生方の広報に対する努力はすごいですね。中高で教師をした後で小学校の校長になる人も多くいらっしゃいますが、最近ではそうした方が「小学校の広報活動もこうあるべきではないか」とアドバイスをしてくださいます。そうした貴重な意見を参考にしながら、学校間で児童の数を競い合うのではなく、一歩踏み込んで、私立小学校全体のことを知っていただく人を少しずつでも増やしていくことは、決して無理ではないと思います。

私はよく教員に話すのですが、「学校の申だけで働いていると、近所の人とはみな、

本校のことを知っていると感じてしまう。でも、それは大きな誤解だよ。一歩外に出れば、この学校がどんな教育を行っているのかなど、誰も知らないと思わないかい」と。自分たちの学校のことを身近なところから知ってもらう努力も大事なのではないのでしょうか。

また、私立はどうしてもお金がかかるという問題があります。幼稚園や高校の無償化は議題に上っているけれども、小学校と中学校の学費については何も話題になりません。私立の小学校は、幼稚園や中高、大学を併設している学校が多く、保護者の方も、幼稚園から高校まで子どもを一貫して学ばせたいという方がいらっしゃいます。

その時に、「幼稚園はお金がかからなかった。高校もお金がかからないのに、小学校と中学校はたくさんお金がかかる。せめて公立並みに支援が受けられるようにしてほしい」という声を、社会にきちんと伝えていかなければならないと考えています。しかし、私たちが忘れてはいけないのは、“お金をかけてもよりよい教育環境を子どもに用意したい”という保護者の皆さんの気持ちであり、その期待に応えることができる教育活動を展開していくことが何よりも大切にならなければなりません。

また、幼児教室から私立小学校へ、と

いう流れは、長い年月をかけ両者の関係で培われてきたもので、それを否定することはありませんが、その一方で、幼児教室に子どもを通わせることのできる家庭というのはそれほど多くはないと思います。共働き家庭の増加で何がハードルになっているのかというと、両親が仕事で多忙であること、経済的な理由、週末の子どもとの過ごし方など皆さんの思いは様々でしょう。私立小学校入学のためには入学試験に合格しなければなりません、その準備は希望する学校の情報収集とそのため何をしたらよいかをお考えいただくことが大切でしょう。

——幼児教室に行けば、学校のさまざまな情報が手に入るし、周りの家庭がどのような対策をされているかも分かります。そうした安心感、「心の保険」として幼児教室に通わせているという面はあるのでしょうか。

学校によっては、LINEに登録してもらおうことで、いろいろな情報を提供するという試みを行っている学校もあります。ただし、保護者から質問などが送られてきた場合に、全部答えているのは教員の負担も大きいでしょう。

やはり、保護者と学校が直接コミュニケーションのできる仕組みをもっと作らなければならないと感じます。

——先生の学校も公開授業など、保護者の方々に学校を見てもらう機会を多く設けておられます。こうしたチャンスを広げていくことは大切ですね。

最近では、父親が説明会に参加するご家庭も増えています。学校によっては、会社帰りのお父さんをターゲットに、駅前のホテルの会場などで、夕方に説明会を開催する学校も増えています。先ほども申しました通り、中高の広報活動はとても積極的です。私たちが頑張らなければならないと思っています。

その一方で、データを詳しく見ると、別の問題の存在も見えてきます。

日本私立小学校連合会に加盟している小学校の児童数を2016年と2023年と比べてみると、神奈川県が1万239人から9993人に減少しているのに対し、東京都は2万5162人から2万5796人と逆に増えているのです。

これは埼玉、千葉の私立小学校も同じ現

象がみられていると思いますが、東京の小学校と掛け持ちをして、両方受かったら、保護者の方は東京の小学校を選ぶケースが多い。東京は人口が集中していますし、都からの支援も他県に比べると手厚いと聞いています。こうした地域による温度差の問題についても目を向けていかなければなりません。

——東京には長い歴史に培われたブランド校が集中している面もあります。

100年とまではいかなくても、70年、80年と歴史を積み重ねていけば、皆さんに理解してもらえる校風も出来上がりますよね。

まだ歴史が浅いと、「あそこの学校は先生方が元氣らしいわよ」とか、「丁寧に勉強を見てくれる学校だそうですね」というレベ

ル止まりではあるのですが、それが10年、20年と先生方が頑張って歴史を築いていけば、やがてはそれが校風としてしっかりと定着していくのだらうと思います。

——子どもたちも2代、3代とわたって、親子で卒業生となっていけば、それが私立学校を支える大きな力となります。

私が感激したのは、前任である桐蔭学園小学校時代の保護者がおばあちゃんになって、お孫さんを本校に連れてきてくれたことですね。そのような再会ができたことは、涙が出るくらいうれしかったです。

私立小学校受験は口コミの世界という面が強いですから、そういう人がやがて親になり、「あの学校でこんなことがあってよかった」というような話をしてくれるだけでも貴重ですし、ありがたいと思います。

小学校受験は子どもの多彩な面を見ながら

——これから私立学校を受験する保護者に向けて、アドバイスをお願いします。

入試問題をよく見ていただくと、その学校がどういう子どもを欲しているのかということが伝わるといいます。ですから、まずはそれをよく調べ、ご家庭でできる範囲で結構ですので、対策を練っていただければと思います。

ただ、そんな時でも決してお子さんには無理をさせないであげてください。中学受験でも、あれだけ頑張った子が、中学に入ってついていけなくなり、挫折してしまったという子どもは大勢います。

小学校受験でも同様のことが起きないとは言いきれませんがその点はくれぐれも留意していただきたいです。

また、最近の子どもたちについて、各学校で特に気をつけているのが、1年生の4月に教室でスタートする学習ですね。学校生活に馴染める子なのかどうかを、よく見る学校が増えています。

ペーパー試験を解いているときには全然問題がなくても、いざ座って何かしようという、落ち着きなくなる子どもが出てきます。そういうお子さんは小学校での学習活動に取り組めるのか心配になります。

家庭の中では、子どもと親は1対1です。そこではすごく上手にお話ができた、言われたことをきちんとできたりする子どもは多いのです。「今日はこれをやってみようか」と親に言われて、「嫌だ」となると、「じゃあ、ほかのことをやろうか」と親の方で譲ることがあるのかもしれない。

子どもにとって、やりたいこと、やりた

くないことが尊重されるのはよいことかもしれないと思いますが、学校ではそのようにはいかないことが多いです。好きなことをがんばってたくさん力をつけていくことは大切ですが、少しの我慢ができることや挑戦しようという気持ちになれることも必要です。——ひと昔前だと、母親が言ってきたきなくとも、おじいちゃんやおばあちゃんがたしなめたりしていたことが、核家族化が進んで難しくなったのかもしれない。携帯などのデジタルツールも原因かもしれませんが、シングルマザーや共働き家庭の増加など、時代の変化に伴う複合的な原因があるのかもしれない。

共働き家庭のお母さんの気持ちを考えて、仕事から疲れて帰ってきた、子どもが宿題をやっている、直してほしいところはいっぱいあるけど、子どもと一緒に楽しい時間も過ごしたい。無理強いをすると子どもは嫌がるし、家族皆も楽しくなくなってしまふ。そういう気持ちがあることは理解できるのです。

学校でも、「学校でこんなことがありました、あんなこともありました」と、家庭によく電話する教員はいます。でも、その程度のことではいい電話をしなくてもいいのではないかと、と思うこともあります。

自分らしい生活をするために、夫婦が助け合って子育てをするというのがチームワークだらうと思いますが、保護者は学校での様子を見るのがそれほど多くなく、むしろ習い事などで子どもが夢中になって好きなことに取り組んでいる様子を見る機



会が多いと思います。学校で見える部分、家庭で見える部分、どちらも同じ子どもが持つ素敵なおおさら学校と家庭の情報交換・共有が大切で、もしその中で子どもの課題が見えてきたら一緒に考えていくことが大事になります。

——行動観察では子どもたちのどのような様子を見ているのでしょうか。

本校では行動観察というほどではありませんが、制作活動として塗り絵をしたり、集団活動もあって、音楽に合わせて身体を動かしたり、簡単なゲームをやってみたりしています。

ゲームにも一定のルールがあるので、それを守れるかどうか。また、ゲームなどで負けると悔しがる子もいますよね。それはいいのですが、うまくいかないことを他の子のせいにするなどが見られるのはあまり好ましくありません。

——そんな時に、誰かを助けようとする子どもがいたら、学校としては来てほしいですね。

「うちの子はおとなしくて、積極的に何でもやる方ではないんです」と言われる保護者の方もいらっしゃいますが、全然心配はいりません。一緒にいる子たちに不快な思いをさせたり、誰かにいじわるなことをしたりとか、そういうことがなければ何の心配もありませんよ、と答えるようにしていますし、実際にその通りなのです。リーダーシップがあるかどうかはなかなか判断できません。

こうした点をよく踏まえて、小学校受験に臨んでいただけたら、と思います。

——本日はありがとうございました。